

# 校友会報

第 1 8 号

昭和 45 年 12 月 20 日

日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定字中河原一

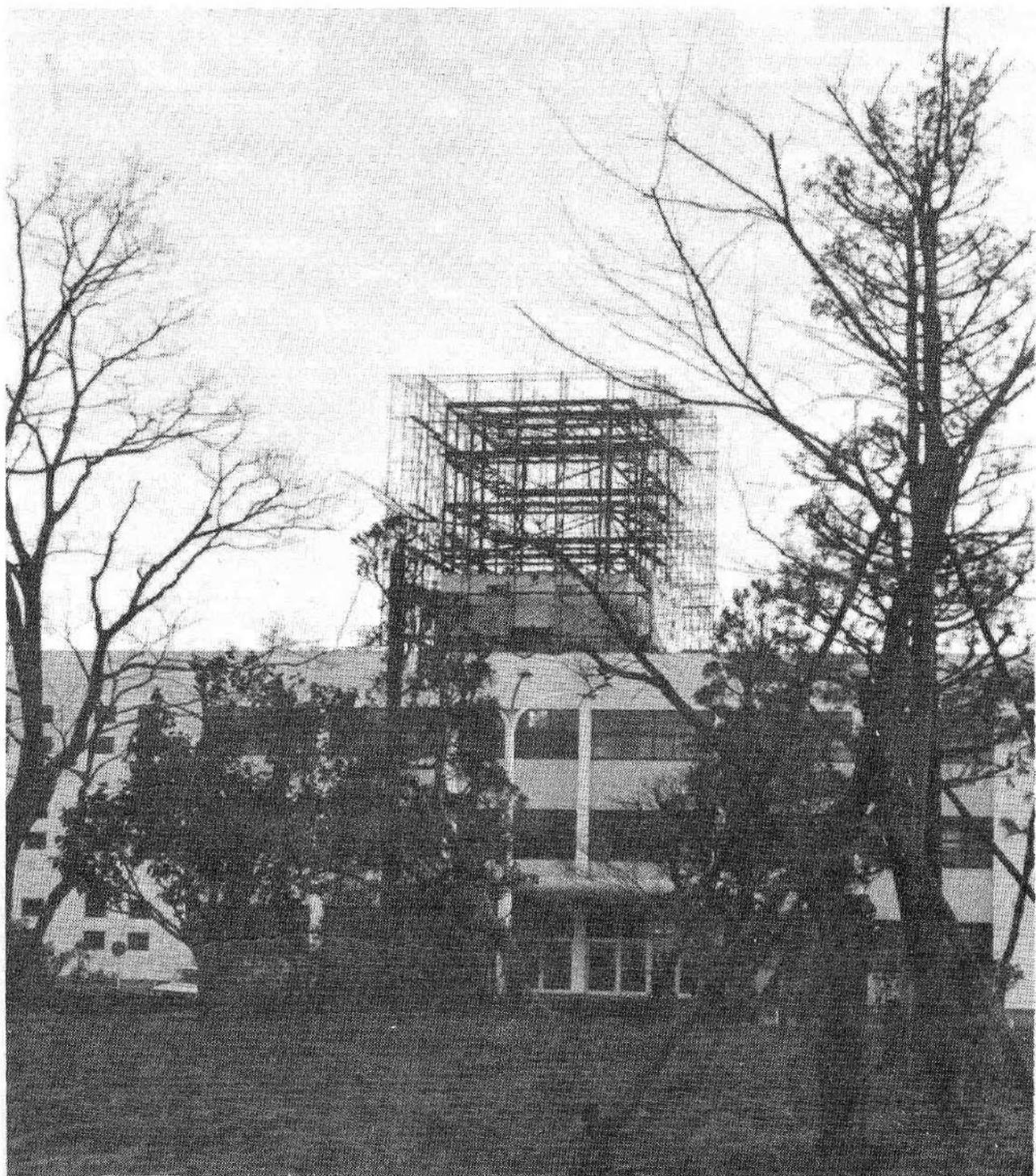
電 話 郡山 44-1327

振替口座 郡山 1990

郵便番号 979-66

発 行 人 半 沢 忠

編 集 人 水 田 守



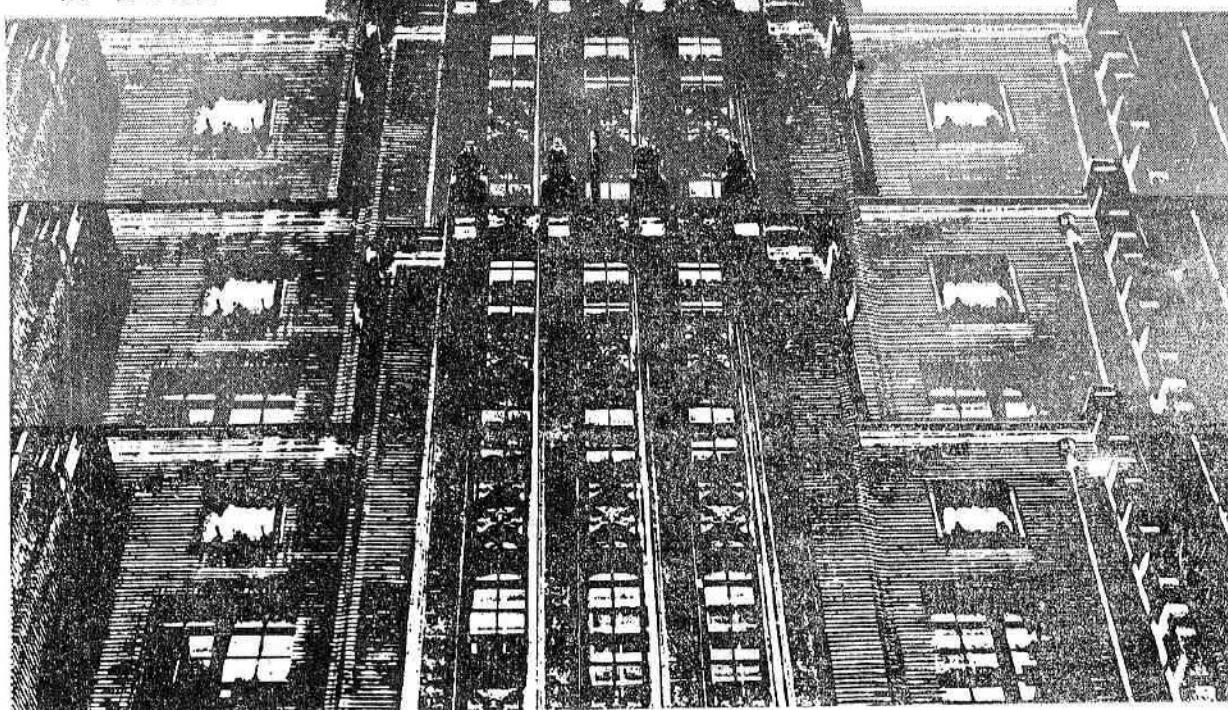
写真説明（管理棟前の整備された庭園より建設中の時計台を望む）

# 古田会長を偲んで

## 新生日大の現状とその未来像



故 古田会長



10月26日 零時30分、黎明をまたず古田会長が逝去されました。ここに慎しんで哀悼の意を表します。

先生は明治24年秋田市に生まれ、篠を負うて上京、大正13年に日本大学法科を卒業され、その後母校に勤務することになり、参事、工学部事務長、事務監、参与、理事を経て、昭和24年には理事長となり、昭和33年、会頭、44年には会長に就任し、今日に至られました。

この御経歴が示していますように、先生は日大に生まれ、日大に育ち、日大で完成された生粋の日大っ子で、その全生涯を日大に奉じられた人であります。

先生の偉業は数多くあり、数えることが出来ませんが、特に母校並びに校友会にとって忘れてならないものは、学部名変更に日夜心魂をそそぎ戦かわれ、当時、夜間大学ではないかと評された汚名をみごとに解消していただいた人であります。

先生の人格については大きな体をして、太った、ムツツリ型でおられましたが、実に学生諸君とも気軽に

面談され相談を受けられる等やさしさを持った方だと今もその姿が目に浮んでまいります。私が学生自治会の役員であった時、たまたま上京し打合せの折、先生を訪問した時等、第一声に何んと言われるかと申し上げますと、きまって、郡山工学部のことを聞かれる。

『良くやっているか、まだまだ設備的にも不充分であろうが、郡山は近い将来日本一の大学になるぞ。』と予想、希望を待っておられ、東京に於ける業務の疲れを、あの静かな阿武隈川の流れでいやしておられた姿は今も大きな感動を与えてくれた。

今突然の悲報を受け、今後の日本大学にとって實におしい人を失ったものだとあらためて先生の御冥福をお祈り申上げるしだいでございます。

尚先生の告別式には会長初め役員の方々が多数校友を代表し参列致しましたことを併せて御報告申上げます。

(日本大学工学部校友会事務局長 化学6回卒)  
半沢 忠記

# 歐米視察記

日本大学工学部助教授 吉沢周蔵



り20日に羽田を発ち旅の第一歩を台北に印しました。

さすがに台湾は話しに聞く通り一歩飛行機より出ると刺す様な暑さに見舞われた。

入国の手続、税関の検査等旅の第一歩なので中々面倒だったが割合スムースに済み、遊佐先生御紹介のホテルに荷を解き一休みする暇もなく台北郊外の松下電器の台北工場の見学に行きました。工場長は遊佐先生の弟さんがやって居るので詳しく工場を見学する事が出来、大変参考になり改めて遊佐工場長に感謝を表する次第です。

同工場は日本の松下で作って居る製品はほとんど作って居り、其れも一箇所の工場で、テレビ、冷蔵庫、クーラー、トランジスターラジオ、ステレオ等と多種類の電気製品を作つて居るので工場長の生産管理に対する苦労は大変なものと推察する。又最初に工場建設をやつした時の工場長の苦心話しを聞いたが並大ていではなかった様である。しかし其れらの苦労の末現在は製品も順調に生産されて居り、其の目的は達せられて居ると思う。一般の従業員の勤務意欲は旺盛で作業中は熱心に働いて居り手先も器用で製品の仕上りも立派である。日本の松下電器の製品と同じ価格で東南アジア等で売られて居るので日本より低賃金である台湾の会社の利益は大きい訳である。将来生産量が上昇すれば、日本の大きな競争相手となるだろう。

街（台北）の情況は現在戦時態勢下に置かれて居るが、かつての日本が戦時体制であった時のような緊迫感はなかった。非常に治安は良く我々旅行者も安心して街を歩く事が出来た。日本人に対しても友好的で30才以上の人達は日本語を話す人が多いのでして街で買物等で言葉の不自由は感じなかった。台北最後の日に旧台北大学を見て香港に発った。

香港は特に記すべき事もないが、狭い所に高層の建物が密集して居り西洋か東洋の街か分らない様な所であるが、わずかに広告等に漢字が使われ、比較的、日本の自動車が多いので東洋にあると言う感じがした。香港に2泊した後マニラに行った。

同所には日本の海外技術援助政策で建てられた技術者養成所を見学した。同所には小生の義兄及び大学の先輩の鈴木氏が居り同所の設備、訓練状況をつぶさに説明してくれた。

設備は資金的に恵まれて居るので日本の技術者養成所と較べてもそう遜色はない様であるが、訓練生の熱意が足らず日本から来て居る技術指導者は大変苦労して居る様に見受けられた。同養成所を見学後マニラ大学を見学に行ったが夏休み中にて学生の姿も見受けられなかつたが、補講のと思われるが数学の講義を少数の学生にやって居たので見せてもらったが、程度は低く高校一、二年程度の3角の問題を学生が黒板でやって居た。フィリピンでは国立の大学より私立の学校に優秀な学生が集まるとの事で文科方面は立派な先生が居るとの事である。マニラにも旅程の都合にて2、3日しか居られず、マニラより飛行機にてアテネに飛び、ローマ、パリ、ジュネーブ、チューリッヒ、デュセルドルフ、ハーバー、ロンドンと欧州は一巡してその後米国に渡つたのであるが、割り当てられた紙数も僅かになつたので、欧州の印象を一纏にして書き後日稿を改めてアメリカに就いて述べたいと思います。

ヨーロッパは御存知の様に歴史は旧く、名所旧跡はヨーロッパの旧い街なら街の中に其れ等が散在して街そのものが観光都市であるものが多い。ローマ、パリ、アテネ等は代表的な街である。特にローマには古代文化の発達した所であつただけに実に街中に旧い宮殿の跡や神殿の遺跡が随所に見受けられた。其れ等の規模は壮大で、現在の建築物に較べても決して劣らないものと思う。よくこれだけのものを機械もなかつた時代に造つたものであると感心させられた。

アテネはローマを小さくした様な街で街の中に有名なパンテオン宮殿の遺跡があり其れが街の誇りでもある。アテネの郊外は、風光明媚な海水浴場が点在して絵の様な所があった。自然の観光地帯も相当多い様に思う。ローマ、パリ、共にアテネより大きな街で、名所旧跡も多く、ローマの街はパリに較べて古ぼけた感じであるが家の材料は大理石を使ったがっしりした物が多く落着いて居る。パリは建物の高さも皆な一定で非常に華やかな奇麗な感じの街であった。ロンドンはパリの様な華やかさはないが非常に重厚な落着いた感じの街でローマに近い様な感じのする街であった。しかもこれらの街には最近日本人の若者が多く街の盛り場には5~6人位のグループの日本人の若人がたむろしていた。多くは勉強に来て居るのであろうが、内には遊びに来て居る者も居り、金がなくなるとアルバイトを

して金をかせぎ次の街に渡って行くとの事で改めて日本の若者の度胸の良いのに驚いた次第である。パリには大使館に未登録のこの様な日本の若者が約一万人位居るとの事である。

ヨーロッパは確かに芸術、哲学、政治学、古典文学等を学ぶには格好の地と思われる。事実東大始め各大学の有名な人文関係の諸先生方はヨーロッパに勉強に来て居られる様である。我々の様な生産技術、経営、販売等の学問はアメリカの方が進んで居ると思われる。

生産工場の設備、技術等も僅な時間の見学であったが日本と余りちがわず、ある点では日本の方が進んで居る様に見受けられた。従ってもし我々の様な技術者が留学するとすればアメリカに行く様になるだろう。

非常に最後の部分はバラバラになり纏りがつかなかったが、又折があったらお話しする機会もあると思いますので、其の時に足らない所はお話しするとして、一応これまでにて今回は筆を描かさせて頂きます。

(筆者は機械科の助教授)

## ヨーロッパをまわって

日本大学工学部助教 林 精一



今まで一度も飛行機に乗ったことのなかった私が、このたび、フランスのグルノーブルで開かれた第7回国際電子顕微鏡会議に出席し、合せて英・仏・独・伊の研究所や大学の視察という目的で出張を命ぜられ、Air France機で25日間の旅に羽田をたったのは8月21の昼でした。

今度の出張については、大学の海外出張報告や工学部広報にも記事を書いたので、それと重複するのも能がないし、それに校友会の方からも「くだけた話を…」という事なので、その積りで私が見聞した事を思いだすままに書いてみます。

私は国際会議のためにつくられた日本派遣団の一員として、決められたスケジュールで旅行したので言葉の点でも、美術館・教会その他の見学や観光でも日本人のガイドがついたので苦労は少なく、初めて海外旅行される人にとっては団体旅行も悪くないと思います。しかし、各国、各民族それぞれの歴史に彩られた文化遺産を理解できるだけの基礎的教養を相当もって意欲的に旅をすることが折角のチャンスを生かすことになると思いますし、これは國の内外を問わない事です。

何度もでる食事にやや食傷気味になった頃、モスクワでの1時間の休憩をいれて、15時間余りの飛行から開放されて、ようやく夕方のパリにつきました。

パリは、まだバカンスでしたが、外国の観光客のため、サクレクール寺院、シャンゼリゼ通り、エッフェル塔、ノートルダム寺院、凱旋門、コンコルド広場、ルーブル美術館、ベルサイユ宮殿は相當に混んでいました。

私達は、毎日のよい天気で喉が乾いたのですが、食事には水は出ないので、mineral waterかnatural waterを買わねばなりません。ヨーロッパでは食事時に水を飲むのは、馬と日本人と米国人だけという様に

幾分、嘲けりの目で見られます。昼間から、フランスではぶどう酒、ドイツではビールを飲んでいます。英國では、昼でも酒を飲まないとgentlemanの資格を剥奪されるとガイドは話していました。煙草は14才から許されていると聞いて私も、さすがに驚きました。どこのホテルでも朝食は日本のように野菜やハムなどではなく、小さいパンにバターとジャム、それにコーヒーか紅茶です。昼と夜は談笑しながら日本人と違って、ゆっくり時間をかけて食事を楽しんでいます。

英会話も拙ない私の話がヨーロッパでは、どうしたら何とか通ずるか?。まずアクセントを正確に発音する事が必要です。英國以外では、若い学生に聞くのがよいと思います。彼等は現在の日本を比較的の理解していて人種的偏見にとらわれないし、それに英語を習っているからです。フランスの年配の人はフランス語を世界一きれいな言葉と信じ、英語を知っていても返事をしてくれないことがあると聞きました。

対日感情は、やはりドイツとイタリヤ人が最もよくホテルでも、にこにこして挨拶を返してくれました。写真は現在、ミュンヘンの近くの大学に留学している私の教え子につれられて、かつてヒットラーが旗上げしたといわれる地区のHofbräuhausという公営の酒場でとったものです。ここは労働者などが集まって大いにビールを飲み歌をうたって夜を過します。日本人が



筆者 右端

傍を通ると、手をひっぱって一緒に飲もうとすすめます。「荒城の月」「上をむいて歩こう」等、日本のメロディが演奏されます。共に戦って負け、その後、目ざましい経済成長をとげ同じ道を歩いた日本に親愛感をもつのも理の当然かと考えられます。ドイツ人は第二次世界大戦で先に無条件降伏したイタリア人には憎しみをもっているとの事です。しかし、イタリアとしては、ローマ帝国以来の文化遺産を戦争で破壊されることを恐れての事と思います。ソ連・イギリス・フランス等に囲まれたドイツの苦しさは同情できますが、保守的な色の強いバイエルン地方に再び、ネオナチの動きが強くなろうとしている事は警戒せねばなりません。国境を接する国との緊張感は、私共の想像以上のものがあろうかと思われます。この事は、幸いにも東ベルリンに入ることが出来て東西の壁をこの目で見、また一人一人パスポートをcheckされた私どもには、実感として今も強く印象づけられています。イデオロギーや宗教の違い、経済格差、人種的偏見に加えて、かつて征服したり、されたりした過去の歴史に根ざした不信感のわだかまるこの世界にいつまでも続く平和を確立するための principle は何であるか。私は当惑し、そして考えこまざるを得ませんでした。

ベルリンにいる時、運よく Berlin radio orchestra の定期演奏会を聞くことが出来ました。Beethoven の「皇帝」と「Bartók」の「弦と打楽器とチェレスターのための音楽」等が演奏されましたが、このオーケストラのコンサートマスターが、かつて天才バイオリニストといわれた豊田耕児氏で、私は外国で日本人演奏家を見ることが出来、涙が出る程嬉しかったし、彼も日本人が20名近くも聞きに来てくれていて、ほんとうに嬉しそうに、私どもに目礼をしていました。

今度の学会でも、ヨーロッパ各地の大学、研究所から馳せ参じ、優秀な研究発表をした若い人もいます。また、日本の大学を卒業して再び、パリの大学に入って美術・建築の勉強をしている学生に相当会いました。この様に、文化、科学技術、芸術の外、政治・経済その他の面で多くの日本人がヨーロッパで毎日第一線で活動していると考えられます。

終りに、私は学会での研究発表や大学・研究所の訪問の外に、色々の経験をしました事を今ここに、書くことによって、私の心に鮮明に、いつまでも印象づける機会を得ましたことに感謝して筆を置きます。

(筆者は一般教育科助教)

## 母校の時計及び時計台の御寄付について

本年7月に時計台建設に関する御寄付を御依頼申上げましたところ、校友会員各位より 404名計 651,954 円也の心暖たまる多大なる、御寄付を賜わり、実行担当委員として誠に感謝申上げます。

御陰様にて、近日中に東洋一高い時計台が母校管理棟の屋上に、聳え立つことになり、今急ピッチにて工事進行中でございます。学生は勿論のこと、時計台を見上げる者にとって尚一層の勉学の励みとなるもの

と思います。

尚御寄付を賜わりました方々には決算書、その他、詳細につき実行委員会より別送により御通知申上げることになっております。誠に出費多難な折、御協力賜わりました事を厚くお礼申上げます。

### 時計台の概要

時 計 直径 5.1m 2面 (精工社)  
時計台 地上23.7m 鉄骨モルタル

## 昭和46年度学生募集

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 募集学科 | 土木工学科・建築学科・機械工学科・電気工学科・工業化学科                            |
| 2. 試験期日 | 2月20日(東京出張試験) 3月5日(郡山試験)                                |
| 3. 試験科目 | 数学(数学I 数学II B 数学III)<br>理科(物理B 化学Bのうち一科目選択)<br>外国語(英語B) |
| 4. 出願場所 | 東京出張試験・郡山試験ともに 福島県郡山市田村町 日本大学工学部入試係                     |
| 5. 試験場  | 東京出張試験 日本大学講堂 郡山試験 工学部校舎<br>日本大学工学部 福島県郡山市田村町           |

# 風土・理念・情勢-----その位相

奥 山 文 朗



安達太良山と阿武隈川を眺めて過した日々が、昨日のように思い出されます。今は比叡山と鴨川を臨む毎日ですが、京都に戻ってから間もなく3年近くになります。東北の厳しい寒さとは違いますが、それでも盆地特有の底冷えはかなりのものです。風土が生活

意識や生活様式を決定づけるにおいては、きわめて重要な要素であるというのは周知のことですが、東北と京都を対比させますと、住む人のものの見方や感じ方にすこぶる興味ある違いが見出されます。確かに農村と都会の両典型であると申せましょう。主として社会学の分野で議論されるようですが、都鄙連続論と都鄙二元論という考え方があります。前者は都市と農村は対立するものではなく、連なっているとする考え方であり、後者は都市と農村を対立概念としてとらえようとするものです。どちらの立場に立つかは別にしましても、実感としては両者にかなりの差異を見出せます。一口で言えば農村人が辛抱強く人が良いのに対し、都会人が発展的で移り気であると感ぜられます。又、農村環境が自然を享受しているのに対し、都市環境は施設整備が進んでいると言えます。分り切ったことのようですが、自己の生活を省みて、その変化に今更ながら風土の影響というか、その位相に驚きを禁じ得ません。

工学部在学中は学生自治活動に精力を傾けておりました。当時は学生運動といい得るような社会的勢力としての一翼を占めるようなものは日大内に無かったと言えましょう。むしろ学生の自治権を学内において確立することが中心課題であり、第二工学部を工学部に学部名変更することが活動の眼目でありました。多元的大学論と称して、ラスキ流の「如何なる善き支配も自治には劣る」を座右銘とし、大学の自治を前提として教員・職員・学生の三者が対等の構成員として位置づけられるべきだという論を展開しておりました。学生自治論としては他にも基本的人権説や政治的自由説などがある、中々まとまるものではありませんでしたが、学部名変更という具体的な目標の下に、割合と活動が集中していたように思われます。さて、今は都市研究に興味を持ち、色々と雑学的に手を伸しております。勿論研究を始めてから日もまだ浅く、論と言えるものにまとまっているわけでもありませんが、生態空間論とでも称したらある程度は抽象できるのではないかと思える考え方には当面しています。つまり、自然を人間と対立させ、人間の側からのみその解決策を講じようとする考え方から、かなりの程度に物質的生活環境や生き方を思うように変えることができるよう

なった現在でも、人間は自然界の一構成要員に過ぎないという冷厳な事実に着目しようとするものです。生物圏の構成要因である地球上のすべての居住者たちは単におかれている外的条件——環境条件——に規制されるばかりでなく、生存の条件として、生物相互の間に一連託生の共存関係が成り立っている、と考えるわけです。これは、今迄都市計画の研究者の間で「生活空間」という空間と居住者の生活様式の対立としてとらえられていた概念を稍々拡大し、空間と生物の生態的均衡を前提とする人間の居住様式を検討しようとするものです。いわゆるエコロジストと呼ばれる人々の考え方方がこれに近いようです。学生自治論と空間論、何の脈絡も無さそうな二つの間に理念の位相的変化はあるにしても、大して考え方には進歩の無いことを認めざるを得ません。

次に情勢の位相として、日大闘争前年の状況と仄聞するところの現状の日大について若干触れておきたいと思います。昭和41年度に学部から派遣されて学生会連合会議長をやっていたので、かなり全学的な状況を把握することができましたが、やはり検閲制度の撤廃が要求の中心であり、学部祭の講演者やパンフレットにチェックが加えられることに対する不満が山積していました。昭和42年度には同数決選投票の後、一票の謹少差で中央執行委員長に選出されました。その頃一連の応援団不祥事件が続き、各学部において学生会と応援団の対立関係が悪化し、その集大成ともいるべき形で、経・短学生会の主催する新入生歓迎会において、いわゆる4・20暴力事件が起ったのです。その後文理学部・商学部・農学部等へと波紋は広がり、学生間の対立などということでなく日本大学そのものの姿勢・体質・あり方の問題として学生間に浸透してまいりました。これに引火するように脱税事件が表面化したのですから、日大闘争として飛躍的に展開して行ったのは当然と言えましょう。聞くところによると、現状の日大には学内においては学生運動といえるものは余燼がくすぶっている程度で、以前の沈滞状況を露呈しているということです。私は日大闘争そのものを評価するにやぶさかありませんが、学生運動という明確な社会運動の形を取る前に、学内において学生自治権を獲得するという地道な努力が欠落していたことを痛責いたします。

風土・理念・情勢その何れもが、目まぐるしく変化していることを感じますけれども、これらの位相に生身の自分が如何にぶつかりそれをどう変え得たか、それこそ自己の主体性と言えるものでは無いかと考えます。日大生諸君が再び学生の自治に思いを馳せ、確固たる地歩を大学において築かれる事を期待してやみません。

筆者 建築学科第16回卒業 財團法人 都市調査会 研究員

# 国鉄に勤務して

浜 尾 文 男



卒業後、養成期間を経て現在の地に勤務することになり、ホットすると同時に、現場の厳しさを感じ、一段と心を縮めている今日此頃であります。

校友の皆様は如何御過しでござりますか、「公の機関」の中に生きる若輩の心意気を御伝えたく、つたなき文面を

記しました。見苦しい点はこのはやる心に免じて御許し下さい。

さて、交通機関の社会に果す役割は政治に、経済に文化にと誠に多面にわたり、人類社会の福祉増進に大きな貢献をしております。近代日本社会の育成発展に重要な役割を演じている日本国有鉄道は、常に此れ等の事を念頭にして日々努力しているのであります。

ちなみにここに鉄道法の目的について述べれば

「国が国有鉄道事業特別会計をもって経営している鉄道事業その他一切の事業を経営し能率的な運営により、これを発展せしめ、もって公共の福祉を増進することを目的としてここに日本国有鉄道法を設立する」と規定している。

“能率的な運営による国鉄の発展”と“公共の福祉増進”とは国鉄経営の大方針であります。国鉄（国家）の発展は企業性によって達成され、国民の福祉増進は公共性の確保によるものであります。ここで企業性の發揮、公共性の確保、について私見を述べて見たいと思います。

職業観念から申せば企業の社会に対してのあり方は物や労働ができるだけ安く、よりよい品をさらに多くの需要者に供給することである。いいかえれば企業は社会に奉仕することであり、もうけは奉仕したことによって得られる反対給付であります。企業性を利益を求めるだけとしないで、物やサービスを産み出すことによって社会に奉仕するという考え方には、特に公共企業体には強調されなければならないと考えます。従来の考え方には企業性の發揮ということは、できるかぎり多くの利益を得るように事業を経営することであって、需要者である相手のことは無視されがちであったわけです。現在の世の中でも、企業性発揮の第一の目標が利益であることは別段変りがないけれど、ただ利益をあげた場合に、これをどのようにして再び生産に役立てるかということが、企業に負わされた社会に対する責任であり、正しい企業性発揮の道であります。

国鉄の企業性発揮については、次第に能率的な運営

ができるようになったが、さらにこれを押し進めるには、なお運賃決定方法の合理化や、新線建設の決定とその補償の強化など国民の皆さんから押し進められなければならないものであります。

国鉄の事業は高度の公共性をもつ企業でありますから、いかに企業性の發揮が望まれようとも、利益本位に経営することは許されません。国鉄の最高唯一の使命は公共性の確保であって、その達成の最善の手段として、企業性の發揮が求められるのであります。国鉄の公共性を強く要求する理由は、その全資本を国庫が出資している国民の鉄道であり、公共性の確保を設立目的とする国民のための鉄道であり、公共企業体として国民の信頼にこたえるように運営しなければならない国民による鉄道であるからであります。この国民の信頼によってまかされた国鉄の輸送サービスの良し悪しは、公共の福祉に重大な影響を及ぼすことは必然である。したがって国鉄の経営目標の公共性の確保の手段である企業性を發揮して、そこに「サービスの高揚」と「経営の民主化」に努めておる次第です。

近時、鉄道に対する評として、

欧米の例によって、日本の鉄道が自動車や航空機の進出に押されて、昔日の面影を失うのではないかという印象を持たれる方があるかも知れません。たしかに日本でも自動車や航空機による輸送量は年々増加していますが、本来自動車や航空機による輸送に適する分野まで鉄道が一手に引き受けたことから起る現象に過ぎません。ことにわが国においては気候条件、地形、人口密度、都市分布および国民所得水準などいずれをみましても、鉄道輸送の基盤はちょっと崩れそうもありません。現に主要幹線や都市近郊の輸送量は、年々増加し円滑な輸送ができないほどです。

鉄道輸送の機能は、自動車や航空機と異なり専用の軌道を使って計画的に大量にしかも低廉に輸送できることであり、このことは他の交通機関がいかに発展しても鉄道に代替できるものではありません。鉄道は他の輸送機関に対して、鉄道の果たすべき機能として①固定した専用のレールをもっている。②多数の車両が連結可能であることに基本的な特色があります。専用の軌道をもっているということは、鉄道輸送の安全性・迅速性を意味し、車両の連結ができるということは大量輸送性・低廉性の基本条件であります。

将来の電子技術等の発展を考慮すれば、この二つの特色を持っているがゆえに、陸上交通機関の中で最もオートメーション化への可能性をもった輸送手段といえます。

これからの鉄道輸送のあり方を考えた場合、これらの基本的特性を最大限に発揮することが、国民経済的にも、又国鉄経営にとって最も最も好ましいことです。今後の日本の産業構造は第二次、第三次産業化へとさらに高度化し、人口の都市集中化傾向を来すと思われますが、将来の日本経済社会の中にあって、鉄道がその特性を活用しうる分野は次の三つにあると考えます。

- (1) 大都市における通勤輸送をはじめとした「大都市交通」

(2) 「中長距離の都市間旅客輸送」

(3) 「大量・中長距離の貨物輸送」

これらの分野において、鉄道のもつ特色が十分に發揮すべく、(国鉄職員の中の一人として) 微力ながら自己の責任を果していく覚悟でございます。

どうか諸先輩の叱咤激励を御願い申し上げます。

(筆者 機械工学科第18回卒業)

(日本国有鉄道新潟鉄道管理局 東新潟機関区)

## ◇ 学部だより ◇

### 日大工学部の近況と未来像

昭和43年5月-----日大紛争が起った、以来12月で2年8ヶ月が過ぎ、この間、大学側はどのように改善、改革を行なって来たか我が工学部に焦点を合せてみる。

この2年8ヶ月の間、工学部も学園民主化のため教職員、学生、父兄たちの懸命なる努力によって実現されようとしている、「家族大学」を工学部のモットーに教職員、学生間の人間的接触をいかにするか、又、いかにすれば信頼感を深めることが出来るか、現在、各種の具体案が検討されている。又、父兄との連絡を密にして一層の教育効果を期するために毎年夏季休暇中に教職員が直接出かけ全国各地で父兄との懇談会を開催している。又、今年4月より大学院工学研究科も新設され学問研究の場としての雰囲気も一層盛り上りを見せている。

最近、工学部より打出された改革について述べると

#### 1. 講義に関する改善

実験、実習、製図など教師と学生が個人的接觸を強める科目について特に力を入れるよう努めている。

#### 2. 学生関係の諸改善

現在、学生生活委員会を中心に学生の細部にわたって目を配り少しでも快適な生活が送れるよう検討を重ねている。とくに学生寮の俊英寮には数人の教員が昨年から寝食を共にするなど学生との接觸を深めようとしている。

努力している。

購買関係では昨年から書籍部が新設され大いに利用されている。さらにサークル活動には校友会、学部、父兄会など三者が資金の助成を行なって大いに工学部発展に役立っている。

又、新しく寮、下宿、交通など全面的に学生生活の充実化が進められている。

#### 3. 学生の自治活動

学則とは関係なく学生の団体、集会、掲示、印刷物その他に関する事項は昭和43年6月14日の学部集会において大多数の学生の賛意を得て届出制に改め、教授会においても確認され工学部独自のものとして運用されている。

#### 4. 事務管理面の改善、改革

#### 5. 教員人事の刷新について

#### 6. 経理の公開

#### 7. 建築関係

以上、工学部の教育、経営面の改善、改革がなされ皆に愛され親しまれる郡山学園として発展を続けるでしょう。

どうぞ校友のみなさん、来郡の節は母校にお寄りになって下さい。お待ちしております。

——日大広報第6号より転記——

### 第13回学術研究報告会開かる

昭和45年度恒例の学術研究報告会は、12月21日工学部主催、校友会後援により1号館に於て、科毎に行なわれた。午前9時開始し午後4時まで、母校の諸先生方を始め、一般校友も参加して貴重なる発表があり、希望学生の聴講もあって、頗る盛会であった。

今回の発表件数は、土木工学科15件、建築学科26件、機械工学科10件、電気工学科21件、工業化学科11件、一般教育科25件、合計 108件であった。今後益々充実発展することを期待するものである。

#### 会員名簿訂正表

名簿印刷後に住所変更された右記の校友について会報を通して訂正させていただきます。

第12回建築学科卒業	吉富信介	勤務地	海外技術協力事業団・日本青年海外協力隊技術員として2年間モロッコ政府勤務
第17回建築学科卒業	河谷史郎	連絡先	東京大学大学院建築学専攻
第13回電気工学科卒業	安田悦啓	連絡先	立石電機株式会社東京支店 東京都千代田区四番町5 東亜ビル内

〔学部だより続き〕

## 北桜祭盛大に行なわれた

母校恒例の学部祭・北桜祭は10月30日より11月3日まで5日間に亘って、本学部キャンパスを中心に行なわれた。学部祭は20回目、北桜祭は2回目である。

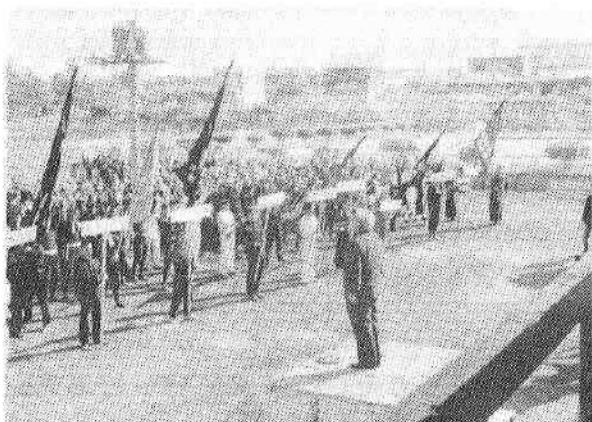
北桜祭はハブニングもあったが、盛会裡に終了した。開祭式に続いた、みこしパレードにはみこし13台、千人の参加者があった。展示会では、土木研究会、茶道部が優良と認められた。人気のあった北海道物産会とバザーの純益金は福祉施設に寄付することになっている。小雨の中の運動会では、対抗リレーが人気を呼んだ。教職員対抗リレーでは職員チームが、クラブ対抗では400mリレーは野球部、800mはスキー部、マラソンはボクシング部がそれぞれ優勝した。

招待落語・のど自慢大会は1500の座席が満員になり立見客も相当に出た程であった。文化講演会は講師の人選がよく、講演は興味深かった。演武会に続いた掉尾をかざるファイアストームには1200名が集まり、フォークダンスと合唱で北桜祭を閉じた。

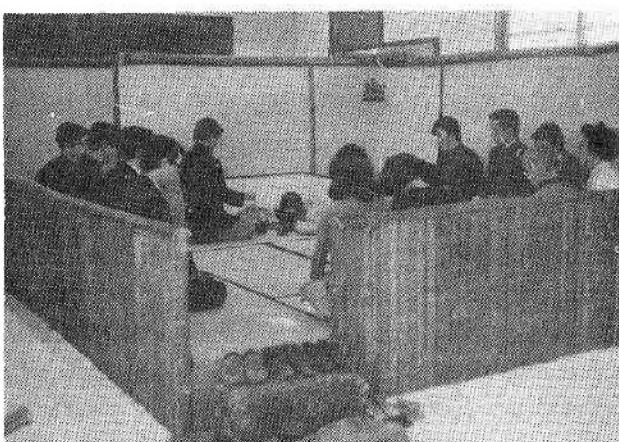
(工学部広報No.15、No.16より抜粋転載)



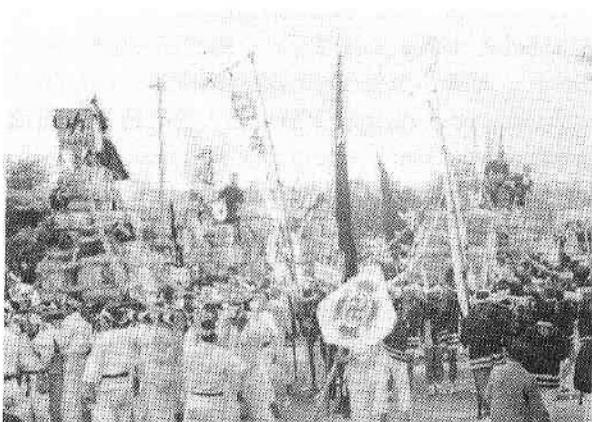
北桜祭のシンボル



体育会結成1周年式典



展示茶道



みこしパレード



小運動会

# 校友のお便り

## 昭和45年度総会に出席して

校友 三瓶 晃男



総会の余いんで、春雨の夜、母校をしのぶ。

夜来の雨で増水した丸太橋を渡って、新緑のアカシヤ林を通る。

アブクマの堤防の向うで初夏の衣替えを終ったセーラー服姿が手まねぎをする。

大青空に、はてしなく広がる巻雲、そしてアブクマの峰々……。

一人春雨の音を戸外に聞きつつ、しらず間には、をつたわる涙を覚える。

あたい千金の想い出に耽り、今日ある自分を懐かしむ。――

鉄とガラスと、コンクリートと軽金属、私はこれらが好きでこの道に入った。

初めは気まぐれで……、そのうち本気になって、だからまた私は、人々が好きだ、友達、そして先輩、後輩。

母校の廻りは新緑であるはづの時、大東京の高層ビルの最上段で、私達日大工学部の同窓総会が催された。

懐かしい友人、そして義兄弟の様な相棒、「オー」「やー」「元気か?」「お前もか?」、肩をたたいて、手をにぎり、金ボタンと、角帽だけが変っただけで、過ぎし日と変りない友を見る。

「そうか、良かったなー」「大丈夫だ、やって見ろ」こんな間がらこそ我が同窓会の使命でもあり、喜びでもある。

新役員が選ばれ「全てをまかせる、よろしく頼む」と祝杯を上げた。

郡山工学部万才!日本大学万才!

久しぶりに笛声をはり上げて昔をしのんだ。

'70・6 大日本土木株式会社

建築部計画課長

建築科4回卒 三瓶 晃男

## グライダー

The OBkaiho より一部分転載

校友 山上慶之

10月10日の日米対抗グライダー競技は翌11日が雨の

為、10日のみの成績で順位が決められた模様です。10日はさながらOBの家族ミーティングかと思われる程なごやかな一日でした。これからも行事のある時には家族総ぐるみで楽しみたいものです。

久し振りに青空に白く輝く優雅なソアラーを見ていますと又学生に戻って存分にグライダーをやりたい気持ちに駆られます。

(筆者 山上慶之 機械工学科第13回卒業)

校友 増田洋司

校友の皆様方には、益々健康で御活躍のことと思います。

私は、現在東京都の地下鉄10号線を実施計画中です。この線は他の既設線及び計画線の全てと立体交差するため、地下20m~30mと深くなり、シールド工法、開削工法、連続地中壁工法等を主体に、ケーソン工法、沈埋工法、凍結工法等を併用して地下鉄建設に鋭意健闘中です。(以下略)

(筆者 土木工学科第14回卒業)

東京都交通局高速電車建設本部計画部勤務)

校友 長岡陽一

寒さも一段と増して来た今日この頃です。

つきましては小生、第18回(土木)卒業の者ですが、前まで山形県土木部港湾課に勤務していましたが11月より千葉県水道局船橋水道工事事務所勤務に変わりましたので勤務先変更の連絡いたします。

校友 川原正昭

機関紙を通して日大工学部の発展を窺い、卒業生として非常に喜びに堪えません。

小生、このたび当地へ家を建て越しましたので住所変更を宜しくお願いします。

今後は工学部発展の為陰ながら力になりたいと思いますよろしくお願ひします。

(筆者 電気工学科第14回卒業)

校友 金野輝章

小生、卒業以来ダイハツディーゼル㈱に入社し、日本国内はもとより、国外にても使用される船舶用、陸用その他のディーゼル機関の運転検査にたずさわり日夜はげんでおります。昨年8月下旬に新工場が出来、こちらに転勤になりましたのでお知らせします。

(筆者 機械工学科第15回卒 ダイハツディーゼルKK

守山工場

[1]

## —校友会事務局よりのご連絡—

### ◎会員の名簿とご連絡について

昭和45年度版の会員名簿に編集後記として、掲載しておりますが、会員の住所・勤務先等の正確さを期するためには本紙を通して重ねてお願ひします。

① このたび同封にて発送した会員名簿は、第1回から第18回卒業までの総合版ですが、何しろ7500余名の調査ですから、記載上いろいろと不備の点があるかと思います。例えば氏名、住所の番地、勤務先の所在地、その他。

お気付きの点がありましたならば、なるべく早く事務局まで御連絡ねがいます。

② 校友の中には、連絡先・勤務先・父兄住所ともに不明の方がおり、会報、名簿、総会通知などをお届けできないでおりますが、これは非常に残念でございます。一人でも手がかりがありましたならば連絡の方法をお知らせ下さい。

③ 住所が前から同じでも新町名に変わったところが、あります。この場合にも是非新町名をお知らせねがいます。

④ 転勤や、住所異動のときは従来通りご連絡下さい。

### ◎終身会費のご納入について

このたびの会員名簿発行については、印刷費と発送費とに多大の経費を要しました。

つきましては終身会費（2,000）未納の方は、この際、本会の事情をご賢察下さいまして、納入方よろしくお願い申し上げます。送金については、現金書留か、振替によってねがいます。振替口座は郡山1990番です。

### ◎電話番号の変更について

このたび郡山電話局の電話番号が変わり、当大学関係の電話は11月2日から下記の通りになりましたのでお知らせいたします。

大学

大代表	44-1300
庶務課	44-1315
会計課	44-1316
俊英学寮	44-1317
教員宿舎	44-1318
東北工高	44-1314
校友会	44-1327

なお

市外局番 郡山局は（0249）です

### ◎会報の原稿ならびに広告募集について

校友会報は大体7月と12月をめあてとして、年2回に亘って発行しております。大部分の校友の方にはお届けしておりますので、その内容については同じような傾向に流れているのではないかと反省もしております。

校友の皆様に喜んで戴けるような会報にするためには、何といってもその内容が問題であり、そして編集の形式であろうかと思います。豊富で深みのある正確な資料であり、新鮮で進歩的なものであるように願っております。そうした会報にするためには校友各位の暖かい御協力を得なければなりません。

① そうした観点から日本全国各地に於いて活動して居られる会員の皆様から、生の声を投稿して下さることを切に願っている次第です。例えば個人の研究、体験、感想とか、グループによる活動や会合の状況とか、又その地方の特色なり、何でも結構です。分量や、形式などは随意ですから、どしどしお寄せ下さい。校友会に対する要望なり、御意見といったものもございましたならばお願ひします。

② 次に卒業も回を重ねること18回、先輩の中には自営により大発展を遂げつゝある方が、相当におられるようです。そうした方で校友会報に『広告』を掲載御希望でしたならば資料をお寄せ下さるようにおねがいいたします。

各科別卒業生数調 (45. 4現在)

回数	科 年度	土木	建築	機械	電気	工化	合計
	昭和						
1	27	32	17	12	28	15	104
2	28	18	9	2	6	8	43
3	29	36	15	12	11	12	86
4	30	37	16	26	31	4	114
5	31	53	35	37	30	6	161
6	32	89	71	40	51	16	267
7	33	56	43	69	47	12	227
8	34	48	58	85	57	18	266
9	35	49	89	122	78	40	378
10	36	67	104	125	110	51	457
11	37	38	113	189	83	37	460
12	38	78	132	166	142	83	601
13	39	140	205	190	144	104	783
14	40	161	211	147	138	135	792
15	41	151	185	174	128	66	704
16	42	152	165	138	109	55	619
17	43	148	243	168	116	49	724
18	44	178	284	125	132	69	788
合計		1,531	1,995	1,827	1,441	780	7,574